

発刊にあたって

福島県相双農林事務所長 荒井 賢治



21世紀に入って7年目、品目横断的経営安定対策の実施や新たな森林林業基本計画に基づく施策など農林業にとっては、大きな節目を迎えています。

本県にとっても本年は、昨年9月に策定した「ふくしま食・農再生戦略」に掲げた5つの戦略の実施や2年目を迎える森林環境税を

活用した森林整備が本格的にスタートする年であり、このような中で機関誌の発刊ができますことは、意義深いものであります。

さて、農山村を取り巻く環境は、過疎・高齢化の進行などによりムラの空洞化が広がるなど厳しさをましてありますが、今から160年前の幕末期、天明・

天保の大飢饉により、藩存亡の瀬戸際に立たされた相馬藩は、藩再興の切り札として、二宮尊徳の教え(「至誠」「勤労」「分度」「推譲)」に基づく、「御仕法」を導入し、約30年間に亘り、荒れ地の開墾や、水路新設、ため池築造、新百姓の支援などを行い、米収穫量の大幅な増加や人口が約2万人増えるなど地域の復興に大きく貢献したとともに、それらのかんがい施設は現在でも十分機能し基幹施設として重要な役割を果たしております。

長期にわたって同一政策が継続し、成功に導いたのは、優れたリーダーの存在はもちろんでありますが、御仕法実施に際し、過去の米生産量等のデータを綿密に分析し実施に移したことで、善行者に「報徳訓」を授与したなど藩の情報収集発信機能が充実していたことではなかろうかと思われます。

先人にならい地域の様々な情報を提供・発信することにより、元気な地域づくりのきっかけになれば幸いです。

なお、2005年、中国の大連市に中国東北・二宮尊徳研究センターが設立されたことを附記します。

トピックス

● 相馬地域有機農産物等普及推進会議を開催

9月20日、相馬地域における「ふくしま型有機栽培」等の産地づくりに向けた有機栽培等技術の普及や産地化推進を図るため、農業者や関係機関等約20名が参集し、開催されました。現地調査は、南相馬市原町区大谷武山健一氏の水稲有機栽培ほ場と飯館村飯樋飯館野菜研究クラブ会長鈴木秀範氏のミニトマト特別栽培ほ場を視察・検討しました。水稲有機栽培では、コナギが少し生えている程度に抑草されている状況に参加者の関心が集まりました。

推進会議では、「ふくしま型有機栽培等技術実証ほ」の進捗状況、平成20年度の「ふくしま型有機栽培」等の普及拡大目標と推進方策を協議しました。

(農業普及部)



水稲有機栽培ほ場での検討風景

● ワークショップを活用した事業計画書の作成

ワークショップを活用して事業計画書を作成した「村づくり交付金事業新地地区」における取り組みを紹介します。きっかけは、「清らかな清水を活用し、ホテルの乱舞する水路整備をしたい。」という住民の声でした。

ワークショップへの参加者の選任及び場の設営は新地町が行い、進行は県が行うこととしました。ワークショップ参加者30名を4班に分け、現地調査を含め3回行いました。

参加者は、いろいろな意見を出し、その中には造るだけでなく維持管理の重要性を指摘する声もあり、住民の皆さんは私たち以上にいろいろなことを考えていることが分かりました。



<緊張した発表風景>

(農村整備部)

- ・水路の幅を広くする。
- ・水路には、シジミ、川エビもいるよ。
- ・維持管理はだれがやるの。 ・水路は、曲げて造ろう。
- ・菖蒲、アヤメを植えよう。 ・駐車場を造ろう。
- ・草の生えにくい水路がいいな。

集落営農情報

園芸作目を取り入れて集落営農を進める 「下浦ひまわり集落営農組合」

南相馬市小高区の下浦地区では、以前から転作組合が大豆の基幹作業を受託していました。しかし、個人の小規模な営農に限界があることから将来を見据えて、集落で農業経営を行うことを検討しました。その結果、19年2月に集落の18名で集落ぐるみ型の「下浦ひまわり営農組合」を設立しました。さらに組合では、水稲と大豆の生産に加え、収益性の高い野菜・花きの導入を検討し、遊休大型ハウスを活用した水稲育苗・コマツナ・イチゴ・アスパラガス・トルコギキョウの生産を開始しました。10月には直売所も開設予定です。

これからの活動の発展が期待されます。

(農業普及部)



イチゴ定植作業風景

お知らせ

● 森林ゼミナールを開催します

森林環境税を活用し県民一人一人が参画する新たな森林づくりを推進するため、森林づくりボランティア等に携わるうえで必要な森林・林業に関する知識を学ぶ機会として、県内4地域で「森林環境ゼミナール」を開催します。浜通りでは次のとおり開催しますので、皆さんお誘い合わせのうえ是非ご参加ください。

- ・ 日 時 11月4日(日曜日)
午前9時30分～午後3時
(集合:9時15分)
- ・ 場 所 新地町総合体育館会議室及び鹿狼山
(集合:新地町総合体育館)
- ・ 内 容 森林づくりのお話し、木工工作、
森林体験
- ・ 申 込 先 開催事務局:相馬地方森林組合林業
指導課(TEL 0244-22-0831)

・ 参加費は無料ですが、各自で昼食・飲み物・作業用手袋・歩きやすい靴・雨具等は準備願います。詳しくは上記申込先へご確認ください。募集人員は100名です。
(森林林業部)

「ふくしま食・農再生戦略」 関連情報

県では、今後重点的に取り組む方向を示した5つの戦略からなる「ふくしま食・農再生戦略」を昨年の9月に策定しました。

この戦略は、消費者と農業者の相互理解を基本としながら、「食」「農」「環境」が一体となった農業の持続的な発展を目指すもので、多くの県民の方々の参加や相双地方の特色を生かしたきめ細やかな対応が必要であることから、関係機関・団体や「食」関係団体等からなる「ふくしま食と農の絆づくり運動」相双地方推進本部を7月に設置し、様々な取組みを実施していくことにしています。

この取組みの1つとして、「大地の恵み感謝祭 in 相双～食と農の絆づくり～」と題したイベントを10/27(土)に道の駅「南相馬」をメイン会場として開催します。たくさんの楽しい体験企画や試食、プレゼントも用意していますので、是非ご来場下さい。

兵(つわもの)紹介

木登り伐採名人 登場!!

渡部福与さんをご紹介します。現在、相馬地方森林組合の現業職員(グリーンワーカー)である渡部さんは、南相馬市鹿島区在住の59歳。高校卒業後20歳頃から山仕事に関わり、その後森林組合職員として林業作業に携わり続けて30年の大ベテランで、危険な高木での作業技術に優れた方です。



特に周囲に建物等があって木をそのまま倒せない時に行う吊し伐りの第一人者として広く知られています。吊し伐りとは、伐ろうとする幹や枝をあらかじめワイヤーや滑車で吊り下げられるように同じ木に固定してチェーンソーで伐り取って地上に降ろす工程を繰り返す、上の方から順々に下がっていくもので、時にはクレーン車を使う場合もあるそうです。この作業を昇柱器という器具を足に付けて木に登り樹上で行うわけですから、熟練の技が必要です。

吊し伐りを年間数十件もこなされ、平成15年には(社)



国土緑化推進機構が選定する「森の名手・名人100人」に森づくり部門で選ばれています。また、高度な技術に係る各種研修に積極的に参加され、地域の模範として活動されています。

趣味は絵を描くことという渡部さん、今後もますますのご活躍を!! (森林林業部)

ご意見・ご感想・PRしたい情報などをお寄せ下さい。

福島県相双農林事務所 地域農林企画室

〒975-0031 福島県南相馬市原町区錦町一丁目30番地 TEL:0244-26-1177 FAX:0244-26-1169
ホームページアドレス <http://www.aff.pref.fukushima.jp/sousou/>